

研修参加報告書

令和5年1月13日

会 派 名 江南クラブ
会派代表者 牧野 圭祐

(参加者： 尾関 昭)
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和4年11月11日(金)
研修時間	13:15~15:30
研修場所	イイノホール(千代田区内幸町2-1-1)
研修内容	地方議会活性化シンポジウム2022 (基調講演：西南学院大学法学部教授 勢一智子)

研 修 参 加 報 告 書

年 月 日	令和4年11月11日（金）
研修時間	13：15～15：30
研修場所	イイノホール（千代田区内幸町 2-1-1）
研修内容	地方議会活性化シンポジウム2022 （ 基調講演：西南学院大学法学部教授 勢一智子 ）
<p>■目的</p> <p>地域の諸課題に対応するため、納得感のある合意形成を進めていくためにも、多様な層の人材の参画を進めていくことが必要である。女性や若者などの参画やデジタル技術の活用による議会への積極的な住民参加の促進を目的とした地方議会における取組事例を学び、それら取組の推進における課題を共有して、また議論することを目的とする。</p>	
<p>■内容</p> <p>01. 基調講演「多様な人材が参画する地方議会の実現に向けて」</p> <p>○我が国の人口は2008年をピークに減少に転じており、今後も人口減少が加速。</p> <p>○女性参画の国際比較（ジェンダーギャップ指数）としては、日本は146カ国中、116位。「教育」「健康」は世界トップクラスだが、「政治」「経済」は値が低い。</p> <p>○地方分権により、地方議会で決めないといけないことが増えている一方、議員定数は減り続けている。⇒実態とそれを知り得ていない民意とのギャップ</p> <p>○多様な人材の参画を前提とした議会運営とは〈議論・取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議規則における育児・介護等の取扱の明確化 ・ ハラスメント防止の取組（条例） ・ 夜間議会、休日議会、通年会期制 <p>○住民に開かれた議会とは〈議論・取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政策サポーター制度 ・ 議会モニター制度 ・ まちなかカフェ DE 議会 ・ 模擬公聴会 ・ 女性議会 ・ 少年議会 ・ 住民に対する情報発信の多様化⇒DX時代の議会へ <p>○人口減少社会（移行期）で重要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の将来像をどう描くか ・ 地域資源の投資先の厳選（地方議会で検討） <p>○地域の持続可能性 と ところ豊かな暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年世代、将来世代を含む多様な主体の参画が必須。多様性に富む地方議会 <p>○多様な人材の地方議会への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立候補環境の整備、モチベーション醸成 ・ 議会と住民のコミュニケーション充実 ・ 社会経験が活かせる議会 + 議員経験が活かせる社会 → 社会全体の変革へ 	

02. パネルディスカッション（事例紹介）

パネリスト	吉村 悠	福岡県議会議員
	渡辺 賢次	船橋市議会議長
	齋藤 浩一	山形県遊佐町教育委員会教育課
	風間 雅文	〃
	本目 さよ	（一社）WOMAN SHIFT 代表理事

○デジタル技術を活用した住民参加推進の取組 【船橋市議会】

- ・オンライン議会見学会・意見交換会の実施 対象者：小3～高3
夏休み期間中に開催時期を変更、平成28年には18歳選挙権開始に伴い、参加対象者を高校生にまで拡大。
- ・議会広報委員長が校長会に出席して、学校側からのアプローチを実施してもらう取組を開始。
- ・実施後の今後の課題→①コロナ禍はオンライン型の導入効果は高いが、実際に来場して参加したいという意見が多いので、1回あたりの定員数を減らす等の工夫をして、来場型の実施を検討したい。②参加者アンケートの結果を市政に反映し、市民へフィードバックする体制を確立したい。③周知方法の見直しや出前講座等を通じて中高生の更なる参加を促したい。

○若手女性議員のネットワーク&ママの議員インターン【（一社）WOMAN SHIFT】

- ・設立目的→①超党派の議員ネットワーク形成。②議員を応援したい、関わってみたいという市民との繋がりや活動の創出。
- ・女性の声を政治に繋げるためには→①議会の暗黙のルールを学び合うワークショップの開催。②ママインターンプロジェクトの募集。③ハラスメントの研修をする。
- ・議員とインターン生の間にも生まれる相乗効果とは
【議員側】①リアルな生の声が聞けて、市政や議会に届けることができる。
②活動のサポート増進で、より幅広くスピーディーな行動を取ることができる。③新時代の後援会的な役割を担うかもしれない。
【ママインターン側】①育休や仕事の隙間時間を地域貢献活動や自身の学びに使うことができる。②地域への愛着や関心が高まるとともに、近隣に志をもとにする新しい仲間との繋がりができる。

■所感

地方議会活性化という観点より、様々な事例や考え方、課題等を学び得たが、従前からの活動とは異なる新たな展開がさらに必要である。また、議会改革をとともなう発案や現在の技術を十分に活用したツールを用いた活動なども、議員と市民との接点の増加と、青少年への主権者教育に繋がり、その重要性を改めて実感した。